

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性構築 <学校教育自己診断の保護者評価「指導方針に共感」R3：93%、R4：94%、R5：95%>
キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む）

- ア 正確なアセスメントを行う
- イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
- ウ 児童生徒が「わかる」授業を行う
- エ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
- オ 小中学部からのキャリア教育を推進する

(2) 時代にマッチした教育理論を構築する

- ア 「自立活動」を再考する
- イ 応用行動分析に基づく指導支援を行う
- ウ 新生活様式に応じた教育を検討・展開する
- エ ICTを活用した取り組みを推進する
- オ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
- カ 防災に努める
- キ 食育を推進する

(3) 次世代教員を育成する

- ア 人権感覚を高める
- イ 他学部の取り組みを知る機会を作る
- ウ 経験の少ない教員を育成する
- エ 将来の管理職候補を育成する

2 保護者・地域・関係機関との連携 <学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価（全体平均）R3：87%、R4：88%、R5：89%>

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

(1) 保護者との連携を深める

- ア 年度の早期に信頼関係を構築する
- イ 保護者間で悩みや喜びを共有できる場を設定する。
- ウ 保護者の意見を受け止める機会を増やす。
- エ 保護者から学ぶ

(2) 地域との交流を推進する

- ア あいさつ運動を展開する
- イ 就学前施設と連携する

(3) よりわかりやすくスピーディーな情報発信を行う

3 働き方改革 <学校教育自己診断の教職員評価に「業務の効率化・平準化」の項目を新設。R3：80%、R4：82%、R5：84%>

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

(1) 同僚性の高い職場づくりを行う

- ア 適材適所の人事配置を行う
- イ 学びあう雰囲気を作り出す

(2) 業務の効率化・平準化を行う

- ア デジタル化を推進する
- イ 業務の精選を行う
- ウ 年休の取得を進める

(3) 業務推進体制を再構築する

- ア 首席を学校経営の要として配置する
- イ 学年主任の業務を軽減する
- ウ 教務主任・保健主事、給食主任の業務を軽減する
- エ 学校経営計画の推進部署を明確化する

4 地域支援 <相談実施後の「訪問相談・来校相談アンケート」における肯定的評価 90%以上維持>

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

(1) 北河内支援学校相談サポートセンター（KSC）による「研修サポート」を行う

- ア 「支援教育公開講座」を行う
- イ 研修講師の派遣を行う

(2) 北河内支援学校相談サポートセンター（KSC）による「相談サポート」を行う

- ア 悩みを共有し「KITADE」を活用しながら実践のサポートを行う
- イ オンライン相談を行う

(3) 学校全体で地域支援を行う

- ア 「登録相談員」による地域支援を行う

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]

学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (「 」内の太字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R2年度値]	自己評価
知的障がい教育の専門性構築	(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む)	(1)	(1) 学校教育自己診断の保護者評価 「障がい理解」90%維持 [92%] 「授業は楽しい」80%以上 [79%]	
	ア 正確なアセスメントを行う ＜小学部・支援部・担当首席＞	ア 「児童一人ひとりを皆で理解しあおう！」 ・小学部で「太田ステージ」によるアセスメントを行い、児童の発達段階を共通理解するための1つの基準とし活用する。 「明日を拓くキャリア教育プログラム！」 ・全校で「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを行い、グループ編成等に積極的に活用する。	ア ・小学部において太田ステージのアセスメントを継続実施。新しい教員に向けての研修1回以上実施 ・全校における「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを完全実施	
	イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜支援部・担当首席＞	イ 「コミュニケーションを上げよう！」 ・PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)を導入する。	イ ・PECSに関する研修を2回以上実施	
	ウ 児童生徒が「わかる」授業を行う ＜支援部・小学部＞	ウ 「子どももおとなもやる気スイッチON！」 ・教材やアセスメントの共有化、ICT等の活用を図り、障がい特性や認知面により応じた授業を行う。	ウ ・小学部において教材データベース30%増	
	エ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する＜全校＞	エ 「ほめて・ほめて・ほめる！」 ・「ほめる」場面を作る授業づくりを行う。	エ ・各授業において、各児童生徒のほめの場面5回以上(校長の授業観察時)	
	オ 小中学部からのキャリア教育を推進する＜小学部・中学部＞	オ 「役割を果たそう！自分のお仕事！」 ・朝の「生活」「自立活動」の時間帯に行っている「お仕事(ごみ捨て・出欠連絡等)」の充実を図る	オ 「お仕事」のねらいの明確化及び現在行われている活動の一覧表を作成し共有	
	(2) 時代にマッチした教育理論を構築する	(2)	(2) 学校教育自己診断の保護者評価 「指導方針に共感」93%以上[92%]	
	ア 「自立活動」を再考する ＜支援部・担当首席＞	ア 「支援教育の基礎は自立活動！」 ・「自立活動」を基礎から学びなおすとともに「全体の指導」を意識した授業を行う。	ア ・「自立活動」に関する全校研修1回	
	イ 応用行動分析に基づく指導支援を行う ＜支援部・担当首席＞	イ 「言動の前後にも注目！」 ・指導・支援に応用行動分析の視点を取り入れる。	イ ・応用行動分析に関する全校研修1回	
	ウ 新生活様式に応じた教育を検討・展開する ＜全校・健康教育部＞	ウ 「マスクの下の笑顔をチェック！」 ・日々の授業において、新型コロナ感染症の感染予防につとめる。 「限られた中で最大限の力を！」 ・これまでの行事等を見直す。	ウ ・手洗い・マスク着用の推進(手洗い・マスク着用動画の作成) ・「運動会」「学習発表会」「学習展示会」の実施方法の再検討	
	エ ICTを活用した取り組みを推進する ＜全校・情報教育部＞	エ 「GIGAスクールでつくる(it's cool!)スクール(so cool!)」 ・GIGAスクール構想で導入される機器を活用した授業を展開する。 「ICTでできること？」 ・ICTの活用を推進するとともに、情報モラルの意識向上に取り組む。 「デジタルを追い越せ！アナログも大切に！」 ・デジタル教材とアナログ教材の両方をバランスよく活用した授業を行う。	エ ・小中学部でタブレットを活用した座学の授業20%以上 ・情報モラル学習年2回以上実施 ・アナログ教材の工夫80%以上の授業で実施	
	オ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する ＜視聴覚教育部＞	オ 「life ラリー ライブラリー！」 ・卒業後の余暇活動につながる読書教育を推進する。	オ ・図書室開放デーの実施(月1回)	
	カ 防災に努める ＜児童生徒指導部・担当首席＞	カ 「安全は一人ひとりの気づきから！」 ・BCP(事業継続計画)を活用した防災研修・防災訓練を行う。	カ ・「机上防災訓練」「災害発生時の初期対応シミュレーション」各1回実施 ・これまでとは違った形での避難訓練実施2回	
	キ 食育を推進する ＜給食室・健康教育部＞	キ 「おいしい給食を子どもたちへ！」 ・安心安全の給食を提供する。	キ ・アレルギー事故を防止するために朝の連絡会及び喫食前の確認の徹底 ・野菜の洗浄2回実施	
	(3) 次世代教職員を育成する	(3)	(3) 学校教育自己診断の教職員評価 「初任者、経験の少ない教職員の成長」65%以上[62%]	
ア 人権感覚を高める ＜全校＞	ア 「磨こう人権感覚！ほかほかと温かい心！」 ・体罰、不適切な指導等の防止に努める。	ア ・体罰・不適切な指導を起ささないための人権研修を年1回実施		
イ 他学部の取り組みを知る機会を作る ＜部主事＞	イ 「他学部を知ろう！」 ・初任者が所属学部以外の部の業務を体験する機会を設ける。	イ ・十分な準備のもと、他学部の初任者が初任者同士で丸一日担任を入れ替わり、児童生徒の指導支援を行う。年1回		
ウ 経験の少ない教員を育成する ＜支援部＞	ウ 「応用行動分析って何？」 ・応用行動分析に基づく指導法を学び、実践する。	ウ ・全校研修に加え、グループワークを実施する。年2回		
エ 将来の管理職候補を育成する＜校長＞	エ 「学校経営って楽しい！」 ・学校経営の魅力を伝える機会を設定する。	エ ・「スクールリーダー養成講座」を開講する。年1回		

保護者・地域・関係機関との連携	<p>(1) 保護者との連携を深める</p> <p>ア 年度の早期に信頼関係を構築する ＜全校＞</p> <p>イ 保護者間で悩みや喜びを共有できる場を設定する。 ＜部主事＞</p> <p>ウ 保護者の意見を受け止める機会を増やす ＜全校＞</p> <p>エ 保護者から学ぶ ＜全校＞</p> <p>(2) 地域との交流を推進する</p> <p>ア あいさつ運動を展開する ＜児童生徒指導部＞</p> <p>イ 就学前施設と連携する ＜小学部＞</p> <p>(3) よりわかりやすくスピーディーな情報発信を行う ＜情報教育部＞</p>	<p>(1)</p> <p>ア <u>「グッドスタート！」</u> ・年度当初は、連絡帳・電話・家庭訪問・懇談会等を通した日々の情報交換を特に丁寧に行う。</p> <p>イ <u>「なんでも話そうかい(会)！」</u> ・保護者が家庭における子育ての悩みや喜びを気軽に共有できる場を設定する。</p> <p>ウ <u>「喜びも悩みも共有します！」</u> ・保護者の喜びやしんどさをより広く受けとめていく。</p> <p>エ <u>「保護者に教えてもらおう！」</u> ・「児童生徒を最も理解しているのは保護者である」との再認識のもと、保護者に教えていただきながら本人の指導・支援を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア <u>「おはよう!!元気ですか? ~地域との連携~」</u> ・朝の散歩等の校外での学習に際して、積極的に挨拶を交わすことで、お互いの理解を深める。</p> <p>イ <u>「ともに学びましょう！」</u> ・あかつき・ひばり園と、園児児童生徒の指導支援について共同研修を行う。</p> <p><u>「笑顔こんなに はじけてる！」</u> ・本人・保護者了解のもとで、ほかしなしの児童生徒の活動風景・作品等の情報発信を行う。(年度初めにアンケート実施)</p>	<p>(1) 学校教育自己診断の保護者評価 肯定的評価→全体の平均 87%以上 [86.4%]</p> <p>ア 学校教育自己診断の保護者自由記述欄に「年度当初に担任との連携がとりにくかった」等の記述0件</p> <p>イ 「なんでも話そう会」の実施。年1回</p> <p>ウ 校長Dメールに加え「ご意見箱」の設置</p> <p>エ ・懇談会・家庭訪問の実施 懇談会・家庭訪問時に、より丁寧に聞き取りを行う。 学校教育自己診断の保護者評価 「子どもの障がい理解」90%維持 [92.5%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断の保護者評価に「地域との交流」の項目を新設する。 肯定的評価 80%以上</p> <p>ア ・挨拶推進月間の実施各学期1回</p> <p>イ ・PECSの合同研修1回</p> <p>(3) 学校教育自己診断の保護者評価 「わかりやすい情報発信」90%維持 [94%] ・ほかしなしの情報発信を試行</p>	
働き方改革	<p>(1) 同僚性の高い職場づくりを行う</p> <p>ア 適材適所の人事配置を行う＜校長＞</p> <p>イ 学びあう雰囲気を作り出す＜全校＞</p> <p>(2) 業務の効率化・平準化を行う</p> <p>ア デジタル化を推進する ＜教務部＞</p> <p>イ 業務の精選を行う ＜教務部＞</p> <p>ウ 年休の取得を進める＜全校＞</p> <p>(3) 業務推進体制を再構築する＜全校＞</p> <p>ア 首席を学校経営の要として配置する</p> <p>イ 学年主任の業務を軽減する</p> <p>ウ 教務主任・保健主事、給食主任の業務を軽減する</p> <p>エ 学校経営計画の推進部署を明確化する</p>	<p>(1)</p> <p>ア <u>「得意分野での力の発揮で、互いにリスペクト！」</u> ・これまでの実績を参考にしつつも「やってみよう」という気持ちを大切にする人事配置を行う。</p> <p>イ <u>「寝屋川サロン open! ~学ぶって楽しい~」</u> ・教員同士の学びあいの場を作る</p> <p>(2)</p> <p>ア <u>「今までの 常識変えるよ デジタル化！」</u> ・月中行事予定・特別教室使用管理・学校見学会申し込み等のデジタル化を進める。</p> <p>イ <u>「減らせるものは減らす年(ねん)！」</u> ・今年度は、会議や文書チェック等、減らせるものは徹底的に減らす一年とする。</p> <p>ウ <u>「仕事も大事!自分や家族も大事！」</u> ・計画的に年休を取得できる体制を整える。</p> <p>(3)</p> <p>ア <u>「鍋蓋型からピラミッド型へ！」</u> ・各首席が2つずつの校務分掌を統括する体制を整える。</p> <p>イ <u>「主任さん、それやりますよ！」</u> ・業務軽減のため、学年主任を校務分掌業務から外す。</p> <p>ウ <u>「3・4人寄せれば文殊の知恵！」</u> ・教務主任・保健主事、給食主任にサブを付ける。</p> <p>エ <u>「自主自律の学校経営を！」</u> ・学校経営計画にそれぞれの項目の「推進部署」を明記し、PDCA サイクルに基づき計画を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断の教職員評価 「適正配置」60%以上[49%]</p> <p>イ ・「授業データベース」の活用を推進する 学校教育自己診断の教職員評価 「授業方法等の検討」60%以上 [55%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断の教職員評価に「業務の効率化・平準化」の項目を新設する。 肯定的評価 80%以上</p> <p>ア ・「グループウェア」を活用した業務の縮減と入力ミスの防止</p> <p>イ ・ノー会議デーの完全実施(月1回)</p> <p>ウ ・年休取得日数一人平均1割増 (R2年度は臨時休業期間があったためR1年度と比較する) [R1年度4月~1月:13.3日]</p> <p>(3) 学校教育自己診断の教職員評価 「業務分担と学校経営への参画」60%以上[55%]</p> <p>ア ・各首席が2つの校務分掌を統括</p> <p>イ ・学年主任を校務分掌業務から外す 学校教育自己診断の教職員評価 「適正評価」60%以上[49%]</p> <p>ウ ・教務主任・保健主事、給食主任にサブをつける 学校教育自己診断の教職員評価 「適正評価」60%以上[49%]</p> <p>エ ・推進部署の明記</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域支援</p>	<p>(1) 北河内支援学校相談サポートセンター (KSC) による「研修サポート」を行う <支援部、L.S.> ア 「支援教育公開講座」を行う</p> <p>イ 研修講師の派遣を行う</p> <p>(2) 北河内支援学校相談サポートセンター (KSC) による「相談サポート」を行う <支援部、L.S.> ア 悩みを共有し「KITADE」を活用しながら実践のサポートを行う イ オンライン相談を行う</p> <p>(3) 学校全体で地域支援を行う <L.S、全校> ア 「登録相談員」による地域支援を行う</p>	<p>(1) 「学びの場を提供します！」</p> <p>ア 夏季休業中に地域のニーズに合わせた「支援教育公開講座」を開催する。</p> <p>イ 市教育委員会・学校園からの要請を受け、研修講師の派遣を行う。</p> <p>(2) 「子どもたちへの支援、一緒に考えます！」</p> <p>ア 学校園の先生方が子どもたちへの支援を行う際の悩みを一緒に考え、また北河内教材データベース「KITADE」を活用しながら、実践のサポートを行う イ 訪問相談に加えて、ケース内容に応じてオンラインでの相談も行う（継続相談等）</p> <p>(3) 「みんなのパワーを結集した地域支援！」</p> <p>ア 「登録相談員」制度を開設し、校内の教員の得意分野等に基づいて、情報提供や実際の相談等を行う</p>	<p>(1)</p> <p>ア 5講座を開講する。感染症の状況によっては、WEB による形で開催し、実施後のアンケートで研修内容の肯定的評価 95%以上[すべて中止]</p> <p>イ すべての要請に対応する [支援回数 54 回（訪問・来室・電話相談、研修講師）]</p> <p>(2) 相談実施後の「訪問相談・来校相談アンケート」における肯定的評価 90%以上維持[90%]</p> <p>ア 高等学校への相談支援 2回以上維持 [2回]</p> <p>イ オンライン相談の実施</p> <p>(3)</p> <p>ア 「登録相談員」制度の開設</p>	
---	--	---	---	--